

「ストップ ザ 環境破壊」

1. はじめに

当社は2000年9月にISO14001認証取得以降、環境方針「ストップ ザ 環境破壊」を理念として「感動をもたらす省エネ、省力環境関連機器をデザインする」をスローガンに環境に優しい独自の製品開発を行い、社会に貢献すべく努力を重ねてきました。また屋上緑化、敷地内植樹などに積極的に取り組み、地域との調和、CO₂削減など努めてきました。この度、さらに当社は環境省が提案・推進している国民的プロジェクト「チーム・マイナス6%」の趣旨に賛同し、同プロジェクトへ企業市民の一員として法人及び社員個々人双方で参加し、地球温暖化防止、地球環境改善のための取り組みを推進していくことになりました。今回のISOニュースでは、このチーム・マイナス6%とはどのようなものかをご紹介します。

2. 「チーム・マイナス6%」とは、

京都議定書という言葉・・・新入社員教育、環境教育で概要に触れましたが皆さんの記憶に残っているでしょうか？

1992年の地球環境サミットで、気候変動枠組条約が締結され、現在、日本を含む188カ国及び欧州共同体が締約国となっています（2006年6月現在）。これは大気中の温室効果ガス（CO₂等）の増大による地球の温暖化を抑止することを目的としたものです。この条約の目的を達成するために、第1回目の締約国会議が、1995年（平成7年）3月にドイツのベルリンで開催され、2000年以降の対策について第3回締約国会議で具体的な目標を定めることなどを決定したベルリンマンデートが採択されました。そして地球温暖化防止京都会議COP3（気候変動枠組条約第3回締約国会議）で採択された議定書が京都議定書です。2008年から2012年までに、日本、アメリカ、EU（ヨーロッパ連合）など先進国（39カ国）全体で二酸化炭素、メタンなど6種類の温室効果ガスの総排出量（二酸化炭素換算）を1990年に比べ5%削減することが数値として義務づけられました。（日本：6% アメリカ：7% EU：8%）日本を含む140カ国と欧州共同体が締結し、2005年2月16日、京都議定書は発効しました。ちなみにアメリカは議定書を批准していません。（2007年12月3日現在）

CO₂削減のために行う植林活動などのほか、他国の排出権を購入したり、より削減コストの低い国へ資金提供や投資を行い、その排出削減量を自国の削減量に還元することができます。日本より高い削減目標を掲げたEUなどの西欧諸国が抑制に努めているのに対し、基準となる1990年度の温室効果ガス排出量がCO₂換算で12億6100万トンであったのが2005年度の排出量は13億5900万トンと1990年度から7.7%増加し差し引き13.7%の削減が課せられることとなり産業界の自主行動計画の上積みや、国民運動の展開といった目標達成計画の見直しなど効果的な対策が急務となっています。

この目標を達成するため、政府の地球温暖化対策推進本部は京都議定書目標達成計画を作成しました。この計画の中で、国民に向けた情報提供、地球温暖化対策の普及啓発を目的として、経済界と協力して進める大規模な国民的運動としてチーム・マイナス6%（運営は「チーム・マイナス6%運営事務局」）を立ち上げました。



京都議定書による我が国の温室効果ガス削減約束である“マイナス6%”の達成に向けて、個々人のみで行動するのではなく、みんなで一つの“チーム”のように力を合わせ、チームワークの意識を持って、みんなで一丸となって地球温暖化防止に立ち向かうことをコンセプトとしたものです。現在1人あたりが排出するCO2量の1日平均約6kgを、1kg分削減しようというキャンペーンが「1人、1日、1kg CO2削減」です。これを実現するための国民的プロジェクト、それがチーム・マイナス6%です。

当社は1月30日のアクションプランを織り込んだチーム・マイナス6%参加申請書を事務局に提出し2月12日に受理されました。(株)フクハラとしての数値削減目標は設定していませんが、社員の皆さんの一人ひとりの力を結集しチーム力でCO2削減に努めましょう。

3. 誰もが実践できる、具体的なアクションプラン

チーム・マイナス6%では、CO2削減のための6つのアクションプランを設定しています。各々のアクションプランで宣言した当社の具体的活動を示しますので日常活動での取組みをお願いします。

アクションプラン

Act1：温度調節で減らそう

Act2：水道の使い方で減らそう

Act3：自動車の使い方で減らそう

Act4：商品の選び方で減らそう

Act5：買い物とごみで減らそう

Act6：電気の使い方で減らそう

その他の活動による温暖化防止

CO2 発生量参考値

電気	0.34kg/kwh	都市ガス	1.96kg/m ³	プロパンガス	6.22 kg/m ³	水道	0.58 kg/m ³
灯油	2.49 kg/l	ガソリン	2.32 kg/l	軽油	2.62 kg/l		

当社の取り組み

冷暖房の温度設定管理

クールビズ、ウォームビズの推進

蛇口に「節水」表示で周知徹底

トイレタンクに水の入ったペットボトル投入

アイドリングストップの推進

ふんわりeスタート、ゆっくり加速運転の推進

エコ製品購入の促進

梱包材料の削減

昼休み、退社時等、不要時・不要場所の消灯

パソコンの電源をこまめに切る

敷地内植樹等による緑地率拡大

社員のチーム・マイナス6%参加推進

みんなができることを実践すれば、確実に効果が上がる。大切なのは、「自分だけがやっても」とあきらめないこと。日々のちょっとした気遣いが、積み重なれば大きな削減に。チーム全員が実施すれば、確実に大きな削減効果が期待できます。そのための第一歩は、まず、できることを行動に移すこと。まずは身近なところから取り組みましょう。社員の皆さん個々人のチーム・マイナス6%への積極的な参加をお願いします。

<個人での参加登録方法>

「チーム・マイナス6%」のWebサイト（<http://www.team-6.jp>）にアクセスし「いますぐチーム員宣言！」ボタンをクリックします。



4. 参考に家庭でできるエコアクションを紹介します。

■冷房の設定温度は28℃、暖房時の室温は20℃にしましょう。

冷暖房の使用を1℃控えるだけで

年間CO₂削減効果 32.5kg

■蛇口はこまめにしめよう

シャワーを1分間出しっ放しだと、なんと10リットルにもなります。家族3人なら、1家庭あたり30リットル、ペットボトル15本分のムダに。しかも、水だけでなく、ガスや電気を使ってわざわざお湯にしたものを、捨てているのです。また、水道水の送水には、たくさんの電気が使われています。

年間CO₂削減効果 69kg



■エコドライブをしよう

アイドリング時にも、ガソリンは1分あたり約0.014リットルが消費されています。1日5分のアイドリングを止めたとすると、年間20時間（240日として）。

年間CO₂削減効果 38.6kg

■エコ製品を選んで買おう

新しく家電製品を買うときに、ぜひ注目して欲しいのが「省エネ性能」。エアコンや冷蔵庫などは省エネ性能の表示も普及し、中には、年間電気料が数万円単位で違うこともあり、特に古い機器を使い続けている場合、買い替えコストと電気代を比べてみると、愕然とする数字が出ることも（目安として、おおむね10年で消費電力半減）

■過剰包装を断ろう

1人が1年間で使用する手提げ袋は、なんと230枚。買い物の際には専用のバッグをひとつ用意。ふだんのお出かけの際には、小さく折りたためるバッグを常に携帯しておけば、買い物袋は不要になります。また、プラスチックのトレイなども極力避けて、ムダな包装を持ち帰らないようにしましょう。家に帰れば不要になる袋やトレイは、つくる際にも、再生・破棄する際にも、CO₂を排出しています。そろそろ自分の買い物バッグを、当たり前のことにしませんか。

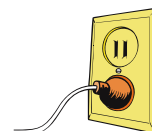
年間CO₂削減効果 58.3kg

■コンセントからこまめに抜こう

例えば、数分しか働かないレンジが丸一日、電気を食べ続けている。

電気製品を使用していないときに、タイマーなどのために消費される電力が待機電力。ビデオデッキ、オーディオコンポ、テレビ、電子レンジなどが代表的です。そしてその合計は、家庭の電力消費のなんと7%にも。スイッチ付きコンセントの活用なども便利です。

年間CO₂削減効果 60.1kg



■そのほか個人としてできる節電

- ・ 夏のエアコン使用時にはできるだけカーテンを閉め、南向きの窓の外にひさしや植え込みを設ける。
- ・ 冬場の暖房はエアコンやホットカーペットではなく、石油ストーブやガスストーブ、ペレットストーブを使用する。
- ・ 掃除機やエアコンのフィルターをこまめに清掃する。
- ・ 冷蔵庫の開け閉めの頻度を減らす。
- ・ 電気ポット・電気炊飯器の保温機能を使用しない。
- ・ 昼休み中のオフィスは、照明を切る。
- ・ テレビをつけっぱなしにしない。画面を見ていない時は、ラジオに切り替えるのもよい。
- ・ 効率化を目的とした器具の買い替え
- ・ 白熱電球を電球形蛍光灯に取り替える。
- ・ ブラウン管のテレビを、液晶テレビに取り替える
(ただし、取替えの際により大画面のテレビにすると電力消費はかえって増えることがある)。
- ・ 自宅に太陽光発電装置を設ける
(自家発電のため節電ではないが電力会社からの買電が大幅に減り節約になる)。
- ・ 古いエアコンや冷蔵庫は新しいものへの取替えを (目安として、おおむね 10 年で消費電力半減)

5. 最後に

環境家計簿をつけますか。通常の日常生活で、どの程度の負荷を地球環境に与えているのかを計る方法としてエネルギー消費をCO₂の重さに換算して計算する「環境家計簿」があります。

地球温暖化の主因であるCO₂の排出を削減することを主眼に、省エネのアイデア、節電データがあり、CO₂削減の努力が、ひいては家計の節約になるというストーリーになっています。環境への負荷を数値やグラフで把握でき、また時系列でも比較できます。インターネットで参加できますので皆さんも一度試してみたいかがでしょう。

<http://www.tepore.com/co2diet/kakeibo.htm>